

これはやばい

オバマ大統領再選へ アメリカは日本ではなく中国を選んだ

独占カラー

強くて美しい女子ゴルファー 木戸愛 / 剛力彩芽 PURE / 大阪アースダイバー

モノクロ

プロ野球 新人王レースを手相で占う / 資産150億円 新富裕層・リブセンス社長の私生活

週刊現イ



石原新党「わずか5議席」「橋本維新」100議席獲得へ

野田「退陣発表」の年内総選挙の全情報 日程も決まった

ネットなりすまし殺人予告 誤認逮捕された被害者「恐怖の取調室」を語った

中国経済「今」までボロボロになっていた

自分のクビを絞めていることに気づかないおバカな国よ

特別対談

江田憲司×田崎史郎

総選挙に出てこい! 橋下徹

11

10

定価400円

Weekly Gendai

2012 November

安倍晋三と半グレ 怪しすぎる人脈の研究

独占 岡田彰布の反省 なぜ私は選手の人気持ちを掴めなかったのか

こんな日本を憎むのか 習近平はなぜ

世界で最も 「次の中国皇帝」を知る ジャーナリストが明かす

プロ野球運命のドラフト会議 藤浪晋太郎たちのこれから

嵐山光二郎 大流行シルバー川柳の楽しみ方



25人アンケート「私の形はこのタイプ」 特別座談会 間違いだらけの女性器伝説

2012年最高のヌード 美しきバレリーナ・草刈民代がすべてをみせた

日本にいる「ノーベル賞級の名医」ベスト30

診察を受けるための一覽表付き 胃がん・肺がん・脳外科・心臓外科ほか





がん 心臓病 脳疾患
椎間板ヘルニア 白内障
病気ごとに本誌が特別

日本にいる ノーベル賞 ベスト30

「神の手」級の名医

こうすればあなたも受診できる!
「神の手」の治療を受けるための
病院・診察日・条件一覧表付き

世界中に弟子が1000人

iPS細胞を作製した山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞受賞に、世間が沸いた。だが日本には、医療の現場でも「ノーベル賞級」と言わば実力ある医師が大勢活躍している。本誌は、世界に認められた「神の手」たちを総力取材し、その治療を受ける方法までを、一挙公開する。

●工藤進英（大腸がん）

人は一休どこまで速くなるのだろうか。陸上競技の話ではない。大腸内視鏡検査、治療のスピードだ。大腸に内視鏡を挿入し、どんな早期がんも見逃さず瞬時に切除する——消化器外科・工藤進英医師（昭和大学横浜市北部病院）は、ペテラン医師でも通常30分は要する工程を平均5分で終えてしまう。累積症例数は約20万例を突破。まさに神業だ。

当然、工藤医師のもとには全国から患者が押し寄せる。そして、世界各国の志ある医師たちも教えを請う

に訪れ、かつ招かれる。「世界中に弟子がいます台湾、中国、韓国だけでも1000人くらいですな」

彼の名を世界に知らしめたのは85年、「臨門型大腸がん」を発見し、「大腸がんは全てポリープ（粘膜の隆起）が悪化したもの」という定説を覆した功績による。臨門型大腸がんは、内視鏡だからこそ発見できた悪性の早期がん。だがこの歴史的発見は長いこと相手にされなかった。欧米での症例がなかったからだ。流れが変わったのは96年。パリで行われた公開内視鏡検査で、世界中から集まった医師が注視する中、臨門型大腸がんを見つけた。

「それが、一気に認められ、ヨーロッパの医師たちがサ

世界初の手術成功、常識を覆す画期的治療法の開発、圧倒的な症例数——日本には、世界に誇るべき名医たちが大勢いる。一見、遠くに感じる彼らの「神の手」は、万人に向けて差し伸べられている。

かったから。多少辛いことがあっても動じません」

●渡邊剛（心臓病全般）

心臓外科医・渡邊剛医師（金沢大学）は、99・5%という驚異的な手術成功率を誇る。「成功率が90%くらいのも二流の心臓外科医は人殺しともいえます」と公言し、ついた異名は「ブラック・ジャック」。

彼は、日本や世界で初の手術を数々成功させてきた実績も併せ持つ。天皇陛下の狭心症手術で、躍行名になったオポポンブ（人工心臓）を使う心臓を拍動させたまま行う「開胸手術も、手術ロボット「ダヴィンチ」

「不要な手術」を許すな

渡邊医師が医の道を志したきっかけは、漫画「ブラック・ジャック」だ。「ブラック・ジャックは無免許医なのに、世界で認められている。権威も地位も超越した実力の世界。しかも琴線に触れば無償で人助けもする。コレだ！」と思いましたね」

若き日は、ドイツで心臓



による開胸しない心臓手術も、日本で初めて行ったのは渡邊医師だ。さらに、局所麻酔のみでバイパス術を施す「アウェイク手術」も創始。いずれも従来の手術に比べ、合併症のリスクも痛みや出血（侵襲性）も低い。アウェイク手術は、重症の呼吸不全や脳梗塞の患者でも施術でき、手術当日から食事事も摂れる。

外科の父と呼ばれるハンズ・ボラスト教授のもとで修行し、2年半で2000件もの手術を経験した。「学んだのは技術だけではない。教授からは、人に頼るなど教えられました」人に頼るなどは、権威や因習、序列、流行ではなく自分で判断するということ。この反骨精神が、渡邊医師

ポットしてくれるようになりました。彼らは事実を突きつけば認められて、どんどん動いてくれる。アメリカでも5年ほど前に認められました。NYタイムズが、「ドクター工藤の主張は正しかった」と掲載してくれたのです」最近の倍率500倍の超大腸内視鏡を駆使し、がんの定理を塗り替える研究に勤しんでいる。

「科学は常に変化します。僕も、自分が10年前にしていたことを覆してききました。進歩するには、好奇心と正しいことを見抜く力が必要です。みんながやるから俺もやるというの

の生き方を貫いてきた。そんな渡邊医師には、苦しい思い出がある。94年にオポポンブ手術について学会で発表した時のことだ。「こんなトリッキーな手術をやってみた方がいいから手を挙げてください」と医学界の重鎮が、嘲笑うかの如く会場に問いかけた。「意地悪ですよね。奇抜な手術なんかやるなって脅しているようなものですから。結局勇気が無いのか、誰も手を挙げませんでした」

道なき道を切り拓くのは、渡邊医師のような天才をしても、茨の道だ。「日本の医学界には違和感があります。外科医なのに手術もせず論文の量だけで教授になったり、学会を牛耳る人が、定数いる」胸に衣着せぬ批判をして憚らない渡邊医師。だがそれも、患者を一人でも多く

上から大腸がん治療の工藤進英医師、心臓外科の渡邊剛医師、脳血管内治療の村山雄一医師

病名	名前	所属病院/所在地/受診できる日	業績
全脳疾患	林 基弘	東京女子医科大学脳神経センター 脳神経外科 東京都新宿区河田町8-1 ☎03-3353-8138 水・木(休)※原則、初診不可 要予約	頭を切らない脳外科手術「ガンマナイフ」が専門。脳外科疾患のほとんどをカバーしている。これまで6600症例以上の治療経験を持ち、その中の約1000件はフランスでの執刀
心臓病全般	高梨 秀一郎	神原記念病院心臓血管外科主任部長 東京都府中市朝日町3-16-1 ☎042-314-3141 水(午前)	人工心臓を使わない冠動脈バイパス手術や弁膜症手術の名手。世界のトップたちが「自分が手術してもらうならこの人」と口を揃える名医中の名医。年間400件以上の手術を手がける
	須藤 久善	心臓血管研究所付属病院スーパーバイザー 東京都港区西麻布3-2-19 ☎03-3408-2315 火(午前)	拡張型心筋症に対して、国内初の「パチスタ手術」を実施。また、世界で初めての胃の動脈を使った心臓バイパス手術など、難手術に挑戦。高い成功率を誇り、国際的に注目を集める
	大木 隆生	東京慈恵会医科大学付属病院 血管外科診療部長 東京都港区西新橋3-19-18 ☎03-3433-1111 水(終日)※要予約	ステントグラフト(人工血管)を用いた手術では、年間件数の多さは桁違いで世界一の血管外科医。不可能といわれた箇所も動脈瘤を手術するための器具を開発するなど、発明家でもある
心臓移植	南淵 明宏	大崎病院東京ハートセンター長 東京都品川区北品川5-4-12 ☎03-5789-8108 月・金(13時~16時)	オーストラリア、シンガポールで臨床修業を積んだ。日本の心拍動下冠動脈バイパス手術の草分け的存在。年間2000例、累計2000例の手術を手がけており、海外からも評価も高い
	渡邊 剛	金沢大学心臓・総合外科教授 石川県金沢市宝町13-1 ☎076-265-2000 火(午前)	最新医療ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた心臓手術の第一人者。ドイツ心臓外科の父と呼ばれるハンス・ホルスト教授に学び、2年半の臨床留学で2000件の心臓手術を経験
	齋藤 滋	湘南鎌倉総合病院副院長 神奈川県鎌倉市岡本1370-1 ☎0467-46-1717 週2~3日(不定期)	手首の動脈からカテーテルを挿入する新しい治療「冠動脈インターベンション」を世界に広める旗振り役。これまで1万8000件の治療をしたが、そのうちの半分は欧米での治療
大動脈瘤	許 俊鋭	東京都健康長寿医療センター副院長 東京都板橋区栄町35-2 ☎03-3964-4890 水(午後)	心臓移植や人工心臓などの高度な外科手術の世界的権威。ドイツで心臓移植、人工心臓手術を修業し、最先端技術を学ぶ。すでに80人以上の心臓移植手術を手がけた経験を持つ
	加藤 雅明	森之宮病院心臓血管外科部長 大阪市城東区森之宮2-1-88 ☎06-6969-0111 水(午前)・木(午後)	ステントグラフト治療の名手で、日本初の大動脈瘤の治療成功に加え、世界初の解離性大動脈瘤の手術も成功させた。また、みずから全国の病院を回り、ステントグラフト治療の指導も行う
糖尿病	門脇 孝	東京大学附属病院院長 東京都文京区本郷7-3-1 ☎03-3815-5411 月・金(午前)	糖尿病研究の世界的指導者で、生活習慣からの糖尿病(2型糖尿病)の原因遺伝子の同定と臨床応用にも貢献。最先端の研究を進める豊富な知識と経験をもとに、対話を重視した治療が評判
ヘルニア	出沢 明	帝京大学医学部附属溝口病院 整形外科部長 神奈川県川崎市高津区溝口3-8-3 ☎044-844-3333 一般:水(午前)・金(終日)	6~8mmの傷口からヘルニアの摘出を行う超低侵襲手術の名手。返戻りさえ困難だった患者が術後2時間で歩く奇跡のような手技に望みをかけ、国内外から大勢の患者が詰めかける
白内障	赤星 隆幸	三井記念病院眼科部長 東京都千代田区神田和泉町1 ☎03-3862-9207 月~水(終日)※要予約	通常30分ほどかかった手術を3~4分で終わらせる「フェイコプレチオップ法」を開発。年間手術数は7500件で、圧倒的に世界一を誇る。アフリカ等でも治療を行っている
脳神経	水野 美邦	順天堂大学越谷病院院長 埼玉県越谷市袋山560 他病院 銀座内科・神経内科クリニック ☎03-6253-8786 不定期※要予約	臨床医としてパーキンソン病の入院患者の治療指導と外来診察を続けながら、研究医としても活躍。パーキンソン病の原因「パーキンソン遺伝子」を発見し、世界の医学界を驚かせた医師
骨柱症	鈴木 信正	臨東京国際クリニック 側弯症センター長 東京都中央区日本橋3-1-17 ☎03-5766-6331 金(14時~)	金属を用いて脊椎の変形矯正・固定を行うウルトラスルメーション手術の腕前では右に出るものはいないと言われる。執刀手術数1000人超と、この分野では驚異的な手術経験を持つ
不妊症	田中 温	セントマザー産婦人科医院院長 福岡県北九州市八幡西区折尾4-9-12 ☎093-601-2000 月~土(終日 木のみ午前)※要予約	体外で精子と卵子を混ぜ、卵管の先に戻すGIFT法での出産に日本で初めて成功。また無精子症の治療で、精子細胞を用いて成功しているのは世界でも田中医師だけ。海外からも患者が来院する

「何より患者を優先し、決して差別しない先生でした。ホームレスで日VV感染の疑いのある人も臆下出血患者が運ばれてきた時も、先生は、「心配しなくていいよ」と言って、患者のおでこにキスをした。その瞬間、感染が怖くて術者になることを心の中で躊躇した自分を叱るのと共に、この人は本当に信じられると思えました。私はその先生のもとで丸8年、患者を安全に治療することを学びました。」

村山医師の業績は、医師の領域を超えている。生体反応を高め、脳動脈瘤の再発を半減させた新型コイルや、スマートフォンで脳卒中の救急医療をサポートする遠隔画像診断治療補助システム「アイストローク」など、画期的な発明を生み出してきた。その技術はアジアをはじめ、世界の医療現場に広がっており、世界の間頭手術が、カテーテル手術か、どちらが優れているか、学会ではいまだ議論になるが、「大切なのは、個々のケースにおいて一番ふさわしい治療法を正しく

病名	名前	所属病院/所在地/受診できる日	業績
肺がん	岡田 守人	広島大学原爆放射線医学研究所 ゲノム疾患治療研究部・腫瘍外科教授 広島県広島市南区霞1-2-3 ☎082-257-5555 月・水(終日)	岡田医師が開発した究極の低侵襲肺がん手術「ハイブリッドVATS」は世界的に認められ、欧米における胸部外科医のバイブル「ピアソン胸部」食道外科に、日本人医師で唯一紹介されている
	伊達 洋至	京都大学医学部附属病院呼吸器外科教授 埼玉県新座市左京区聖蹟川原町54 ☎075-751-4891 月(午前)	日本初の生体肺移植に成功。日本国内での肺移植を可能にした。進行肺がんや肺移植を3000件近く手がけている。その成功率は世界的に飛びぬけており、注目を集めている
	加藤 治文	新座志木中央総合病院名譽院長 埼玉県新座市北1-7-2 ☎048-474-7211 月・水・金(午前)	肺がんの症例を数多く手がけ、新しい診断・治療技術の開発に積極的に取り組む。特にレーザー治療においては世界的リーダーであり、早期がんを切除することなく完治させる治療を行う
胃がん	佐野 武	がん研有明病院消化器外科部長 東京都江東区有明3-8-3 ☎03-3520-0111 火・金(終日)※要予約	開腹手術を極めたスーパー外科医。成功率は99%。同院中川健名誉院長もその腕を「世界最高レベル」と認める。またヨーロッパをはじめ各国で胃がん手術の実演教育に精力的に取り組む
	宇山 一朗	藤田保健衛生大学上部消化器外科教授 愛知県豊明市香井町田栄ヶ丘1-98 ☎0562-93-2111 水(終日)	腹腔鏡手術による胃切除術で胃の全摘出に世界で初めて成功した。また、最先端手術ロボット「ダ・ヴィンチ」による胃がんや食道がんの手術を日本で初めて成功させた医師でもある
がん全般	笹子 三津留	兵庫医科大学病院内上部消化器外科主任教授 兵庫県西宮市武庫川町1-1 ☎0798-45-6251 火・金(午前)	胃がん手術数は2500例。オランダ外科学会から金メダルを授与される。動脈、静脈を傷つけない転移の可能性のあるリンパ節を切除する「幽門保存胃切除術」を開発し、アジアへ広める
	工藤 進英	昭和大学横浜北都病院内消化器センター長 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 ☎045-949-7150 火(午前)※要予約 要紹介状	内視鏡治療の第一人者。症例数は20万件を超え、世界で最も多く早期がんを発見してきた。苦痛の少ない大腸内視鏡検査「軸保持短縮法」を開発するなど、内視鏡治療の進化に貢献している
肝臓がん	高山 忠利	日本大学医学部附属板橋病院消化器外科部長 東京都板橋区大谷口上町30-1 ☎03-3972-8111 水(午前)※要紹介状	尾状葉という肝臓の奥深い部位の手術に、世界で初めて成功した名医。この手術方法は、「高山術式」として世界的に高い評価を得ている。これまでに2000例の肝切除・肝移植を執刀
	幕内 雅敏	日本赤十字社医療センター院長 東京都渋谷区広尾4-1-22 ☎03-3400-1311 火(終日)・木(午前)	肝胆膵外科における世界的権威。エコーを用いる「幕内術式」を開発し、安全性の高い手術を実現。また世界初の成人生体肝移植も手がけ、海外の一流誌でも取り上げられた
乳がん	中村 清吾	昭和赤十字病院プレストセンター長 東京都品川区旗の台1-5-8 ☎03-3784-8000 水・土(午前・不定期)※要予約	遺伝性乳がん研究の第一人者。日本にも同疾患の女性が相当数存在することを明らかにし、最適な診断・治療体制の改革に尽力。また海外の学会にも招かれ、乳がん治療の進歩を牽引する
白血病	谷口 修一	虎の門病院血液内科部長 東京都港区虎ノ門2-2-2 ☎03-3588-1111 火・金(午前)	自己造血幹細胞移植による白血病治療で世界的に有名。あらかじめ自分の血液を作る細胞(自己末梢幹細胞)を採取、冷凍保存しておく画期的なプロジェクトは海外からも注目を集める
がん全般	菱川 良夫	がん粒子線治療研究センター センター長 鹿児島県指宿市東方5198 ☎0993-24-3456 不定期	がんの最先端医療である陽子線治療と炭素イオン線による治療が行える。世界初の施設「兵庫県立粒子線医療センター」の初代院長。「粒子線治療」の地位を確立し、メジャーな治療にするべく尽力
脳腫瘍	上山 博康	旭川赤十字病院脳神経外科部長 北海道旭川市曙一系1-1-1 ☎0166-22-8111 火(終日)	手首の血管を一時的に脳の血管に繋ぐ世界初のバイパス手術の成功など、医療界に革命をもたらした。年間500件以上の手術をこなす。手術器具の開発に関しても、国内外から高く評価されている
脳卒中	谷川 緑野	札幌医科大学病院内脳神経外科脳卒中センター長 北海道札幌市東区北44条8-1-6 ☎011-712-1131 月(午前)※要予約	上山博康医師の弟子で、世界中の学会で招待講演や手術デモンストレーションを行う。その治療技術は師の上山に「日本を席巻する脳外科医」と称されるほど。これまでの症例数は4000件
	村山 雄一	東京慈恵会医科大学附属病院 脳血管内治療診療部長 東京都港区西新橋3-19-18 ☎03-3433-1111 月・水(午後)※要紹介状	未破裂脳動脈瘤治療の名手。日本とアメリカを股にかけて脳卒中医療の研究を進めている。スマートフォンを活用した救急医療サポートシステムなど、斬新な試みは世界で活用が始まっている

助ける方法を常に追求しているからだ。」

●村山雄一(脳血管内治療) 村山雄一、医師(東京慈恵会医科大学附属病院)は、コイルを血管に詰める脳動脈瘤治療の世界的名手だ。一般的には、手術件数の多さが医師の腕前に関係するが、村山医師の場合、着目すべきはそこではない。

「最大の関心事は不要な手術をいかに減らすか」と語り、外科治療の傍ら、脳動脈瘤の破裂の危険性を見極める診断ソフトを開発している。同院では、過去9年で3500例以上の未破裂脳動脈瘤患者を診察しているが、手術をせずに済んでいる患者が70%に達した。

「医療の目的は安全に患者さんを守ってあげること。切らずに済むなら切りたくないし、治療しなくても大丈夫ならそれが一番いい。もちろん治療を要する危険な動脈瘤もあるので、その見極めが大切だ。」

そう考えるようになった背景には、カリフォルニア大学留学中に会った恩師の存在が大きい。

「僕らのゴールは、自分にしかできない治療ができるようにすることです」

うになることではありませぬ。すべての患者さんが安心して、無事に治療が終わるような医療を、世界中どこでもどの医師でもできるようにすることです」

ガンマナイフの達人

●林基弘（脳神経外科）

脳の手術と言えは、受けるだけで命がけの大手術というイメージがある。だが「ガンマナイフ」治療は違う。0・1mmの精度で放たれる放射線をメス代わりに、頭を切らずに無痛で治してしまふ。

「週末に脳腫瘍を治療して、週明けから出社される患者さんを見るほど、超低侵襲な治療法なんです」

林基弘医師（東京女子医科大学）はニコニコしながら話す。気さくな雰囲気だが、ガンマナイフ治療の世界的権威だ。



上から脳神経外科の林基弘医師、胃がん治療の佐野武医師、椎間板ヘルニア治療の出沢明医師、脳腫瘍治療の赤星隆幸医師

「脳腫瘍の治療として使われるのがほとんどです」ところがフランスでは、主にてんかんなどの治療に使われていたのです。痛みだけ除去し、感覚を残す放射線の不思議な特性を活かした繊細な治療です。ガンマナイフへの興味と、子どもの頃の脳神経への憧れが一気に蘇りました」

憧れは、人を突き動かすものはないかもしれない。がむしやらに頑張った結果、林医師はフランス唯一のガンマナイフ治療施設で室長に就任。わずか2年で1014例もの治療にかか

った実績を持つ帰国治療総数は6600症例に達し、現在に至る。

●佐野武（胃がん）

「D2のスポークスマン」

——佐野武医師（がん研有明病院）は、自らをそう任じる。D2とは、「定型手術+胃の3分の2以上を切除+D2リンパ節郭清+切除」の略称だ。日本で生まれた、患者を広くに切り取る手術である。佐野医師は、D2により2000以上の症例を手掛けた。日本を代表する胃がん開腹手術のエキスパートだ。

胃がん大国・日本の治療成績は、世界でもダントツに優れている。その理由の一つが、D2が標準的に行われていることだ。

「日本の場合、手術で亡くなる方は1%未満です。しかし欧米では5〜13%の方が亡くなっています」

D2の信頼性の高さは歴然だ。だが、国際的な評価は低く、D2は長年日本のローカルル的な扱いに甘んじていた。

「僕にしかできない高度な技術を開発するのではなく、みんなができる技術を提供する方が、結果的に大勢の患者を救えます」

野医師は動き出した。「最初は、当時動めていた国立がんセンターで、海外からの見学者に解説することから始めました。僕の説明で「初めて理解できた」と何人もの人に言われた。今度はうちに来て」と依頼されて訪れたのは、15年で31カ国を超えました」

なぜ、佐野医師は発信するのが上手なのか。

「昔から、世界に発信できる医師になりたいという想いがあったんです。胃がんを選んだのも、日本が牽引する領域だったからです」

欧米人への説明には、フランス留学で学んだディスカッションの経験が役立つ。彼らは、どういうステップで話せば理解してくれるのかがある程度学べましたからね」

実家は大阪府で40年続く「御典医」の家系。世界中を駆け回って目指すのは、「胃がん医療の全体的な底上げ」だ。

「僕にしかできない高度な技術を開発するのではなく、みんなができる技術を提供する方が、結果的に大勢の患者を救えます」

野医師は動き出した。「最初は、当時動めていた国立がんセンターで、海外からの見学者に解説することから始めました。僕の説明で「初めて理解できた」と何人もの人に言われた。今度はうちに来て」と依頼されて訪れたのは、15年で31カ国を超えました」

なぜ、佐野医師は発信するのが上手なのか。

「昔から、世界に発信できる医師になりたいという想いがあったんです。胃がんを選んだのも、日本が牽引する領域だったからです」

欧米人への説明には、フランス留学で学んだディスカッションの経験が役立つ。彼らは、どういうステップで話せば理解してくれるのかがある程度学べましたからね」

実家は大阪府で40年続く「御典医」の家系。世界中を駆け回って目指すのは、「胃がん医療の全体的な底上げ」だ。

患者さんを救えますから」

●出沢明（椎間板ヘルニア）

歩行がおろか返りさえ困難だった腰椎間板ヘルニアの患者が25分程度の手術の後、わずか2時間で歩けるようになり、翌日には徒歩で退院して行く。出沢明医師（帝京大学医学部附属溝口病院）によるP.E.D

不可能を可能にした男

彼の腕は世界の医学界でも高く評価され、今年の世界内視鏡脊椎外科学会では副会長を、来年日本で開催される世界低侵襲脊椎外科学会では会長を務める。また韓国、中国、インドネシア、タイなど、各地で手術を生中継する公開手術も行う。学会に集う世界の医師たちは「共にP.E.Dの開発に尽力した仲間」と微笑む。

「彼らとの関係は貴重な財産です。井の中の蛙になるのを防いでもくれます」

術士を普及させる道のは険しく、途中何度も諦めかけたという。

「それでも続けられたのは、学生時代の経験が役立って

いるのかもしれないね」

70年代、学園紛争の最中のことだ。北海道大学で数学教師を目指していた出沢青年は、アフリカでの医療活動に従事したアルベルト・シユバイツァー博士と行動をともにした高橋功医師の講演を聞き、感銘を受ける。そして、3年で大学を中退。医師を志し、千葉大学医学部を受験した。

手術（経皮的内視鏡下椎間板摘出術）のピフォーニアターは、「奇跡」とも称される。P.E.Dは、局所麻酔でわずか6〜8mmの傷口から行う超低侵襲の手術。高度な技術と訓練を要するため、日本で行える施設は20カ所しかない。出沢医師は、その創始者だ。

や耐える心情は、今の自分を導いてくれています」

大志を抱き、挫折を繰り返した青春時代の体験が、出沢医師の医療を支える。

●赤星隆幸（白内障）

赤星隆幸医師（三井記念病院）は、独自に開発した手術法によって、世界の白内障治療に革命を起こした。その名も「フレイコ・ブレチヨップ法」。フレイコ・ブレイヨップという特製の器具で濁った水晶体を細かく分割し、超音波をかける時間を従来の1%程度にまで短縮した。さらに3mmは必要だった切開も、わずか1・8mmで済むようになった。

「1・8mmの創口から、直径6mmの眼内レンズの挿入を可能にしました。最初はなかなか信じてもらえませんでした（笑）」

まさに不可能を可能にした手術法で赤星医師が行う手術はとにかく速い。

「通常は3〜4分、最短で、片目1分28秒で行ったことがあります。呼吸器の疾患で、仰向けでいるのが辛い患者さんでした」

もちろん、速さを競って

悲しみが滲む。速さを競っている。「短時間の手術は簡単と見なされ、診療報酬の引き下げにつながる。など誤解や偏見に満ちた非難を受けることもあるようだ。病弱な少年だった赤星医師は、通っていた病院で、献身的に患者を治す医師を見て、自分も医師になりたいと夢を抱く。以来、「目が見えない人」人でも多く治してあげたい」という思いを原動力に、患者に負担がかからない医療を追求してきた。ブレチヨップ法は、

その集大成ともいえる。だから手術法も器具も特許を取得しない。特許料がかかると、患者の経済的負担が増えてしまうからだ。また、年間7500件以上の手術を手掛ける赤星医師は、開業医になればもっと儲かるはずなのに勤務医であり続ける、手術の機会が少なく大学勤務に背を向ける。「手術が上手くなるには経験が必要です。どんなに険しい肩書があっても、実際に目の前にいる患者さんを治せなければ医者じゃないと思っています」

どんなに成功しようとも、決して功績に甘んじることなく、ブレない手術、ブレない生き方を貫いている。海外で活躍するには、もちろん医師としての高い技術が必要だ。だが、彼らの話を聞くと、必要なのはそれだけでない。と分かる。名声を得るよりも、一人でも多くの患者を救いたいという願い、医療の発展のために努力を惜しまない。その気骨ある医師魂こそ、世界が認める名医たる所以だ。

取材・文 木原洋美

「彼らとの関係は貴重な財産です。井の中の蛙になるのを防いでもくれます」

術士を普及させる道のは険しく、途中何度も諦めかけたという。

「それでも続けられたのは、学生時代の経験が役立って

いるのかもしれないね」

70年代、学園紛争の最中のことだ。北海道大学で数学教師を目指していた出沢青年は、アフリカでの医療活動に従事したアルベルト・シユバイツァー博士と行動をともにした高橋功医師の講演を聞き、感銘を受ける。そして、3年で大学を中退。医師を志し、千葉大学医学部を受験した。

手術（経皮的内視鏡下椎間板摘出術）のピフォーニアターは、「奇跡」とも称される。P.E.Dは、局所麻酔でわずか6〜8mmの傷口から行う超低侵襲の手術。高度な技術と訓練を要するため、日本で行える施設は20カ所しかない。出沢医師は、その創始者だ。

「1・8mmの創口から、直径6mmの眼内レンズの挿入を可能にしました。最初はなかなか信じてもらえませんでした（笑）」

まさに不可能を可能にした手術法で赤星医師が行う手術はとにかく速い。

「通常は3〜4分、最短で、片目1分28秒で行ったことがあります。呼吸器の疾患で、仰向けでいるのが辛い患者さんでした」

もちろん、速さを競って

悲しみが滲む。速さを競っている。「短時間の手術は簡単と見なされ、診療報酬の引き下げにつながる。など誤解や偏見に満ちた非難を受けることもあるようだ。病弱な少年だった赤星医師は、通っていた病院で、献身的に患者を治す医師を見て、自分も医師になりたいと夢を抱く。以来、「目が見えない人」人でも多く治してあげたい」という思いを原動力に、患者に負担がかからない医療を追求してきた。ブレチヨップ法は、

その集大成ともいえる。だから手術法も器具も特許を取得しない。特許料がかかると、患者の経済的負担が増えてしまうからだ。また、年間7500件以上の手術を手掛ける赤星医師は、開業医になればもっと儲かるはずなのに勤務医であり続ける、手術の機会が少なく大学勤務に背を向ける。「手術が上手くなるには経験が必要です。どんなに険しい肩書があっても、実際に目の前にいる患者さんを治せなければ医者じゃないと思っています」

どんなに成功しようとも、決して功績に甘んじることなく、ブレない手術、ブレない生き方を貫いている。海外で活躍するには、もちろん医師としての高い技術が必要だ。だが、彼らの話を聞くと、必要なのはそれだけでない。と分かる。名声を得るよりも、一人でも多くの患者を救いたいという願い、医療の発展のために努力を惜しまない。その気骨ある医師魂こそ、世界が認める名医たる所以だ。

取材・文 木原洋美